



# バンコク便り



## 1. はじめに

タイの祭りの中でも、最も美しい祭りのひとつとして知られている「ロイクラトン祭り」は旧暦の12月（現在の10月または11月）頃に全国各地で行われ、今年は11/27に開催されました。タイの人々の間で古くから続いている風習で、神への信仰や人と川の深い関わりを現し、「水の祭典」とも呼ばれています。そのフォトジェニックで幻想的な光景は、SNSでも話題となり、毎年世界中からたくさんの人々が訪れます。

## 2. 現地ビジネス情報（タイの不動産業界）

今月は住居向け不動産事情を中心にご紹介します。2022年の新築住宅は、95%以上が郊外に建てられるなど、最近の人気は、都市中心部のコンドミニアムから、郊外の低層住宅に移っており、消費者の嗜好が「広々」、「プライバシー」、「緑地」を重視する傾向にシフトしています。

ただし、依然として都市部のコンドミニアム開発は続いており、商業用途と住宅要素のミックスされたコンドミニアムが増えるなど、今後もこのようなトレンドは続くと思われています。

地方においてもチェンマイ、チョンブリ、ラヨン、ナコーンラーチャーシーマーなどでは住宅需要が伸びています。地方中心都市として、経済・インフラ・投資・教育など様々な観点からポテンシャルを有しているとして、政府のインフラ開発などによる後押しもあるようです。

さらにタイの住居は以前から外国人にも人気が高く、特に中国人の購入割合は、件数・金額ともに約5割となっております。これらは、別荘用途のほか、投資物件として購入されている事が特徴です。

また近年は、ミャンマー人富裕層による住宅購入が増えています。背景には、①自身の資産をコンドミニアムに投資することで守りたい、②母国と比べて高度なタイの医療を利用したい、③子供により良い教育の機会を与えたいという強いニーズがあると言われています。



人気の学生向け低層コンドミニアム

## 3. 現地トピックス（山形県タイ友好協会第2回訪タイミッションの開催！）

11/27～12/2にかけ、荘内銀行が事務局を務める山形県タイ友好協会は、山形新聞・山形放送8大事業との共催で第2回訪タイミッションを実施しました。今回はバンコクとチェンマイを訪れ、タイ国政府観光庁（TAT）のターパニー総裁など幹部メンバーと相互交流拡大に向けて意見を交わしたほか、県内進出企業・商業施設視察などを行いました。また、シントン前駐日タイ王国大使ご夫妻、チェンマイ大学チャリン副学長など多くの方々から参加を頂き、同大学での「最上川さくら回廊」海外版記念植樹を行いました。さらに現地訪問初日には、県内からの進出企業やバンコク山形県人会との夕食交流会を開催し、トップセールスで訪タイ中の吉村山形県知事や在タイ日本大使館の梨田大使、現地新興航空会社リアリー・クール航空パティ社長からもご出席を頂きました。今般のミッションを通じ、タイとの友好の絆が確実に深まっていることを実感しました。



桜の記念植樹



夕食交流会の様子



TAT 総裁との面談